第５回　福岡市立学校給食運営検討委員会　議事録

１　開催概況

(1)　日　　時：平成２２年　２月　１日（月）　14:00～16:00

(2)　場　　所：福岡市学校給食会館　２階会議室

(3)　出席委員：秀平キヨミ委員長，永野繁一副委員長
宗像壽子委員，松田瑞恵委員，新飼恵子委員，図師不二子委員
杉山大樹委員，増川郁子委員
井上真理子委員，川原圭子委員，山野みよ子委員，高山泰徳委員
長谷川弘明委員(代理出席)，大西浩明委員
〆野忠雄委員，西村孝志委員（以上１６名）

(4)　事務局　：５名

２　議事録（要旨）

＊　議題に入る前に前回の議論の主な内容について事務局から説明があったが，委員からは特に質問はなかった。

(1)　議題１：平成２２年度の学校給食費について

ア　配布資料に基づいて，要約して事務局から説明があった。

イ　事務局の説明に対し，次のような意見が表明された。

・　給食費の改定がどうしても出来ないということなので，何らかの対応を考えていくしかないが，給食献立や調理現場の工夫については，人手や設備等の制約もあり，これ以上の工夫は相当困難と思う。

・　現場としては教育委員会の平成２２年当初は改定見送りの方針でやっていくが，状況が更に厳しくなった場合は再検討して欲しい。

ウ　これらの意見を踏まえて，事務局から「給食費は据え置いたままで，食材の工夫等による対応でいきたいので，学校現場の引き続きの努力と保護者等のご理解をお願いしたい」旨の発言があった。

(2)　議題２：納入組合からの小学校給食物資調達について

ア　配布資料に基づいて事務局から説明があった。

イ　事務局の説明に対し，次のような意見が表明された。

・　配送費等の経費がかかるため，中学校価格より高くなるのは当然ではないか。

・　小学校と中学校との間で２～３割程度の価格差が生じるのは常識的なラインと思う。中学校が給食センター４箇所のみへの大量配送であるのに対し，小学校は１５０近くの小学校給食室への個別の配送が必要という輸送費や人件費等の配送コストの違いや，小学校と中学校の納入物資の規格の違い，更にセンターは前日納品で小学校は当日朝納品の違い等様々な要因があるので，納入価格だけを見て一概に小学校の方が高いとは言えないのではないか。
・　公開である本検討委員会でオープンなかたちで議論することによって，それだけでも是正効果が期待出来ないだろうか。しかしながら，仲卸業者が納入する中学校青果類と小売業者が納入する小学校青果類は根本的に異なっており，価格差が生じるのはやむを得ない。
・　小学校給食室は狭く，野菜・果物等を保管するスペースがないため，物資の前日納入は困難である。また，一般家庭では常温保存が可能なものでも給食室は余熱がこもりやすい構造であり，前日納品は衛生管理上適切ではない。
・　業者も努力していると思うし，特段に高いという印象は受けない。色々言っていたら給食物資を供給する業者はいなくなるのではないか。
・　定められた規格のものを大量に揃えるためにはコストはかかってくる。供給量の確保は大事だと思う。
・　教育委員会の努力は伝わってくるし，納入組合制度の必要性もあると思う。一般市民や保護者にもそれが伝わるような説明が必要だと思う。分かるように説明されれば，納入組合制度を否定するようなことにはならないのではないか。
・　納入組合は歴史的な側面や意義もあるし，安定した物資の供給のためには必要なのではないか。納得いくような丁寧な説明が求められていると思う。
・　納入組合は存続したうえで，安く出来るところは安くしていくというやり方が望ましいと思う。課題や問題があることは理解出来るが，それらのことをこの委員会であまり突き詰めていかなくてもいいのではないかと思うが・・。

ウ　以上の意見を踏まえて，事務局から「現在の納入組合制度については概ね肯定的な意見が多いことは判ったが，現行の価格水準を明らかにし，価格構成を分析して対外的に説明が出来るようにしていく必要がある。また，地産地消の推進にさらなる役割を果たせないのかどうかも検討の余地が残されている。当面，この委員会に作業部会を設けてそれらの点について作業を進めていきたいと考えているが如何か」という提案があり，委員一同了承した。

3　その他

(1) 福岡市立学校の学校給食における最近の取り組みについて

ア　配布資料に基づいて事務局から説明があった。

イ　説明に対しては，下欄に記載のある「引き続き検討等を進めるべきその他重要課題(案)」を含めて特に意見等は無く，委員一同概ね妥当なものと共通認識をもった。

(2) 次回の会議日程

委員長から，６月以降の開催とすることの提案がなされ，委員一同了承した。なお，詳細については，別途通知することとされた。